

当院における尿培養の不適切検体減少への取組み

◎梅田 由佳¹⁾、馬淵 景子¹⁾
金沢市立病院¹⁾

【はじめに】

当院のASTは、2021年度より「抗菌薬を適正に使用するための正確な培養検査実施」を目指し、培養検体の正しい採取方法の研修を行っている。2022年度は尿培養を対象とし、尿の不適切検体の減少効果が得られたので報告する。

【対象と方法】

2022年12月にオンデマンド配信で「尿培養の検体採取と検査結果に及ぼす影響」について研修を行った。研修前の7月～12月に提出された尿培養514検体、研修後2023年1月～10月に提出された902検体を対象とし、グラム染色結果報告時に検査材料の品質評価を行い、外来/病棟別に、自然排尿、カテーテル尿の不適切検体の割合をそれぞれの期間で比較した。品質評価の基準は、①扁平上皮の混入が(3+)以上、②女性で膣内常在菌の混入が(3+)以上、③長期に留置されたバルーンカテーテルを入れ替えずに採取した検体を「不適」、④採取状況がカルテ情報から得られず評価困難なものを「判定不能」とし、これらを合わせて「不適切検体」とした。小児科は除外した。

【結果】

研修前後の品質評価を比較した結果、「不適切検体」の割合は、自然排尿では、病棟18.1% (19/105件) →11.7% (17/145件)、外来15.5% (34/219件) →10.7% (41/382件)、カテーテル尿では、病棟27.8% (25/90件) →15.1% (24/159件)、外来28.0% (28/100件) →12.5% (27/216件)と、いずれも減少した。

【考察】

研修の前後で不適切検体の割合は減少し研修の効果があらわれていた。しかし患者自身が採取する自然排尿よりも、医療者である看護師が採取するカテーテル尿のほうが「不適切検体」の割合が多く、課題が残った。この結果をふまえて、感染管理認定看護師による介入指導を開始した。さらなる不適切検体の減少を目指し2023年11月現在、各科外来窓口職員も加えて2回目のオンデマンド研修中であり、演題発表時には対象期間を追加して報告する予定である。

連絡先：076-245-2600 (内線252)